

# 令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 城東区  
学 校 名 大阪市立成育小学校  
学校長名 上玉利 恭子

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

### (2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・成育小学校では、第6学年 113名

## 令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科と算数科の両教科とも、平均正答率が大阪市平均及び全国平均を上回る結果となつた。また、平均無回答率も、両教科ともに大阪市平均及び全国平均より低くなつておる、回答に対する意欲がうかがえる。特に算数科は、無回答率が1%台となつておる、大阪市平均及び全国平均の半分以下の割合となつてゐる。

学習指導要領の領域別正答率を見ると、両教科とも全ての領域（国語科5領域、算数科4領域）で平均正答率が大阪市平均及び全国平均を上回つてゐる。特に国語科「C読むこと」、算数科「C変化と図形」は、大阪市平均及び全国平均を6～8%上回つておる、両方とも8割近い平均正答率となつてゐる。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

### [国語]

正答率50%以下は全体の18.7%で、大阪市平均25.9%、全国平均23.9%を大きく上回つてゐる。特に「B書くこと」の平均正答率は、大阪市平均よりも12.1%、全国平均よりも9.0%上回つてゐる。また、「C読むこと」の平均正答率も、大阪市平均よりも8.3%、全国平均よりも7.0%上回つてゐる。

### [算数]

正答率50%以下は全体の29.0%で、大阪市平均33.7%、全国平均32.9%を上回つてゐる。特に「B図形」の平均正答率は、大阪市平均よりも6.8%、全国平均よりも6.4%上回つてゐる。また、「C変化と関係」の平均正答率も、大阪市平均よりも6.2%、全国平均よりも6.1%上回つてゐる。

質問紙調査より

「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「3時間以上」「2時間以上、3時間より少ない」と回答した割合が、全国平均・大阪市平均よりも14%も多く、家庭学習に多くの時間を費やしている子が多いことが分かる。また、「授業の内容はよく分かる」に対して肯定的に回答した割合が、国語科・算数科とも全国平均・大阪市平均よりも多い。さらに、「毎日、同じくらいの時刻に起きている」「いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思う」「学校に行くのは楽しいと思う」に対しても、肯定的に回答する割合が全国平均・大阪市平均よりも多く、規則正しい生活を送り、学校生活を安心して楽しく過ごしていることが分かる。特に、「いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思う」は肯定的に回答した割合が100%であり、いじめ解消に向けて取り組んできた成果が十分に見られた。

上記のことから、落ち着いた環境で安心して学校生活を送り、授業で学習内容を理解し、家庭学習でさらに理解を深めていることが、今回の調査結果に繋がっていると考えられる。

## 今後の取組(アクションプラン)

今年度も「主体的・対話的で深い学び」ができるることを目標に、全学年で授業を実施していく。特に「対話的な学び」に重点を置き、国語科を研究教科として、児童が基礎・基本の学力を身につけられるように、教員の授業力向上に引き続き日々取り組んでいく。そのために、授業研究会や学力向上支援チーム事業を活用し、思考力・判断力・表現力の向上につなげる。

児童質問紙で課題の見えた「ICT機器の活用」に関して、児童がICT機器を使用していることを実感できるように、日々の学校生活や教育活動で活用する機会を多く設ける。そして、ICT機器の活用率が上がるよう、ICT担当者や視聴覚主任を中心に取り組んでいく。

## 【 全体の概要 】

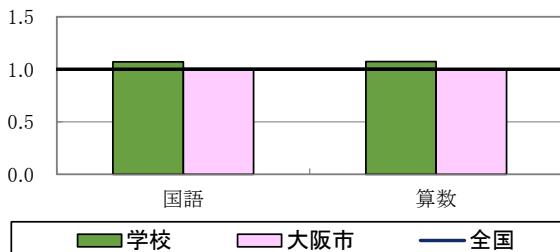
### 平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	72	67
大阪市	67	62
全国	67.2	62.5

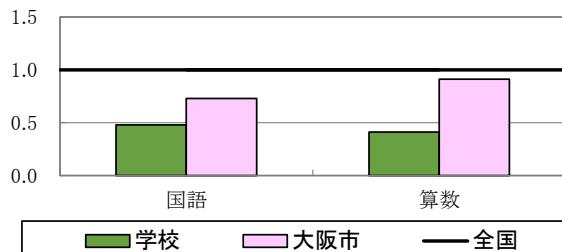
### 平均無解答率 (%)

	国語	算数
学校	2.3	1.4
大阪市	3.5	3.1
全国	4.8	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



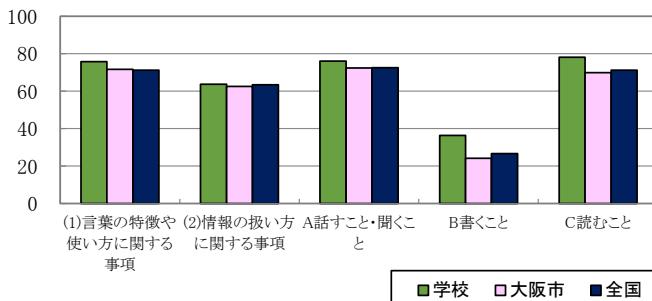
## 【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	5	75.8	71.7	71.2
(2)情報の扱い方に関する事項	2	63.7	62.6	63.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	3	76.1	72.4	72.6
B 書くこと	1	36.3	24.2	26.7
C 読むこと	3	78.2	69.9	71.2

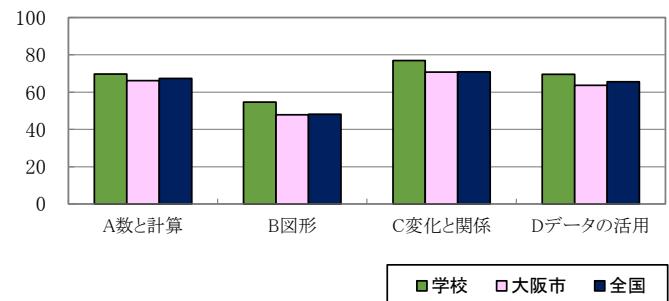
## 【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	69.7	66.1	67.3
B 図形	4	54.6	47.8	48.2
C 測定	0			
C 変化と関係	4	77.0	70.8	70.9
D データの活用	3	69.6	63.6	65.5

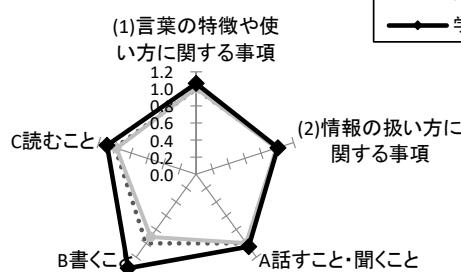
国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



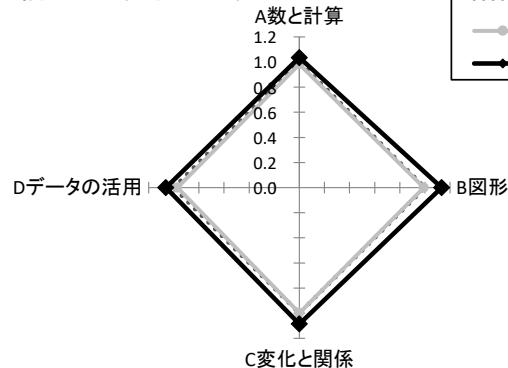
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 領域別正答率(対全国比)



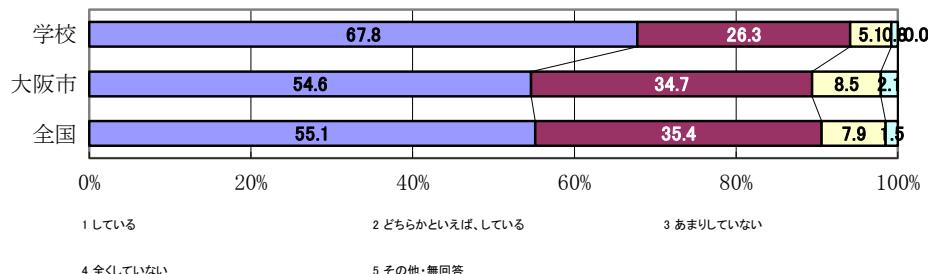
算数 領域別正答率(対全国比)



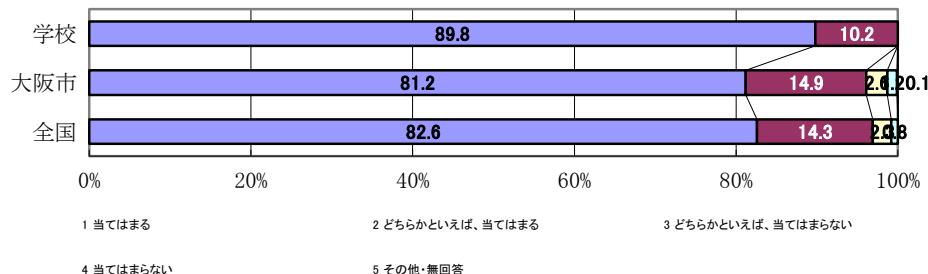
# 児童質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

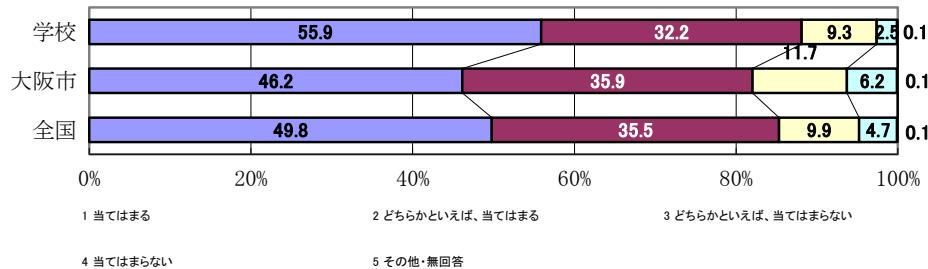
質問番号
質問事項
<b>3</b>
毎日、同じくらいの時刻に起きている



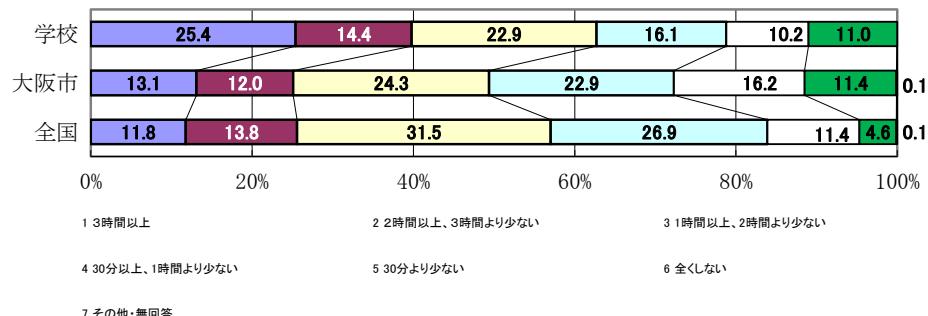
<b>9</b>
いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思う



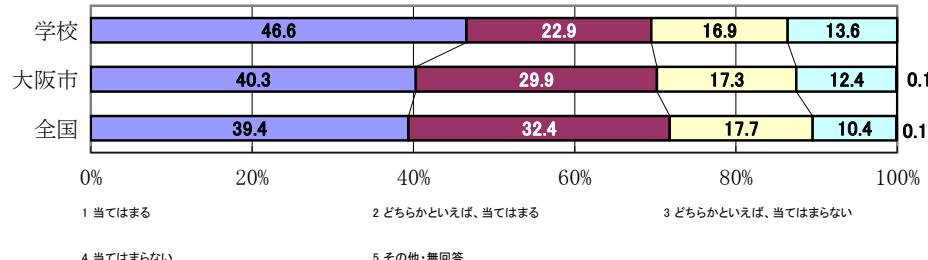
<b>12</b>
学校に行くのは楽しいと思う



<b>17</b>
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます)



<b>24</b>
読書は好きですか



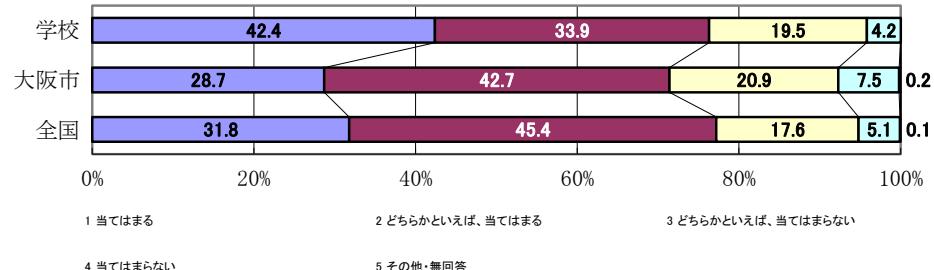
# 児童質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

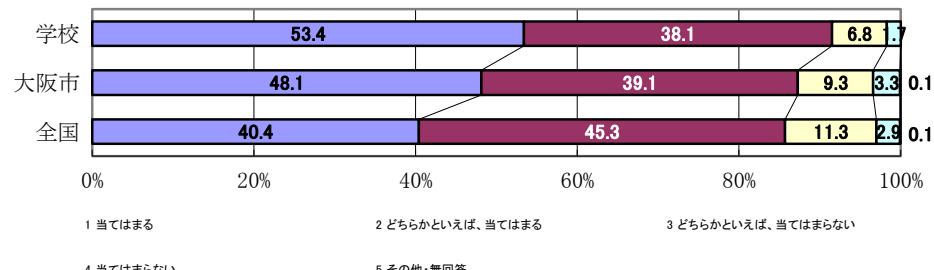
40

あなたの学級では、学級生活をよりよくするするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている



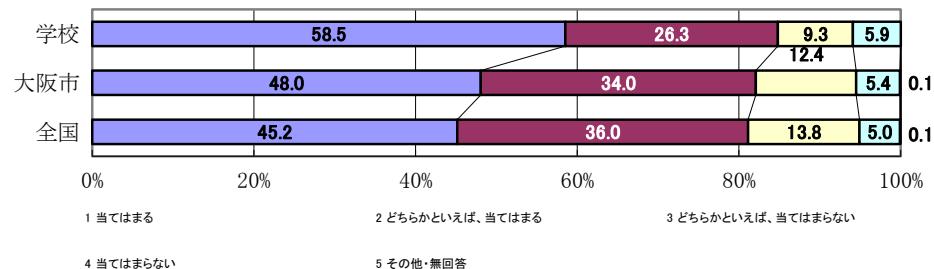
45

国語の授業の内容はよく分かる



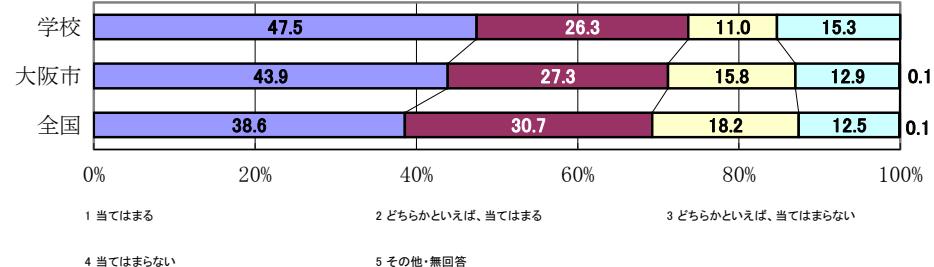
53

算数の授業の内容はよく分かる



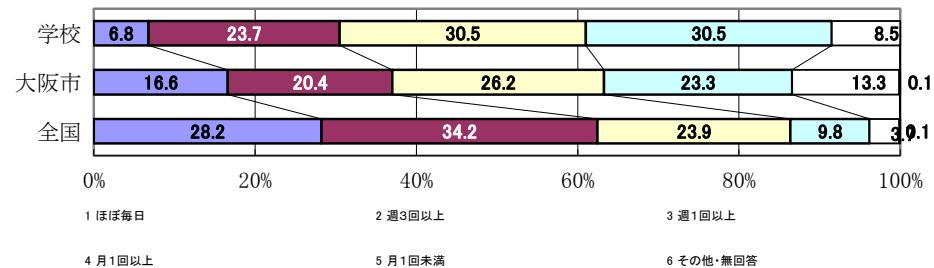
55

英語の勉強は好きだ



29

5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



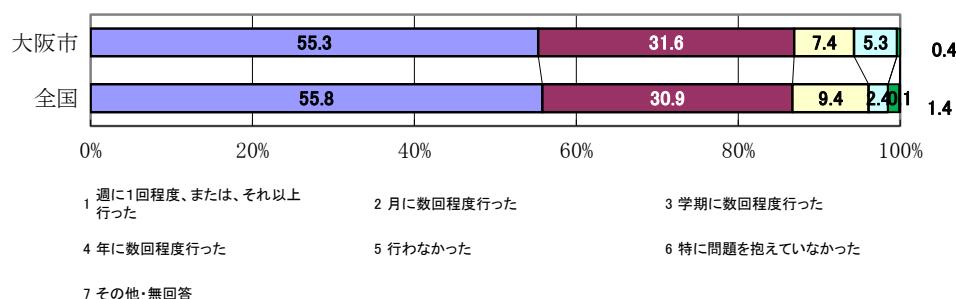
## 質問番号

## 質問事項

15

校長として、よりよい学校運営を行うために、前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか

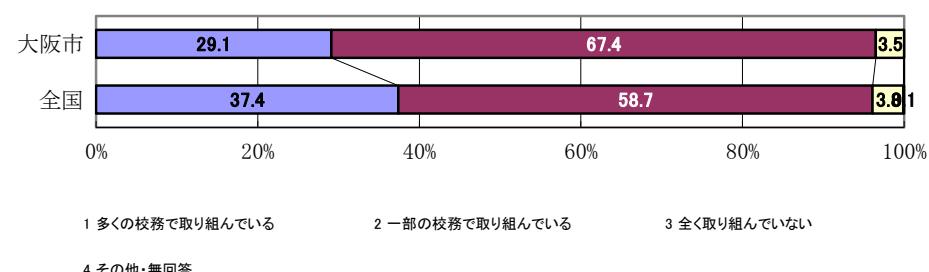
## 学校 「週に1回程度、または、それ以上行った」を選択



17

ICTを活用した校務の効率化の一環として、クラウドを活用した校務の効率化(クラウドサービスを活用した保護者への連絡や、アンケートの実施、教職員等会議のオンライン化等)に取り組んでいますか。

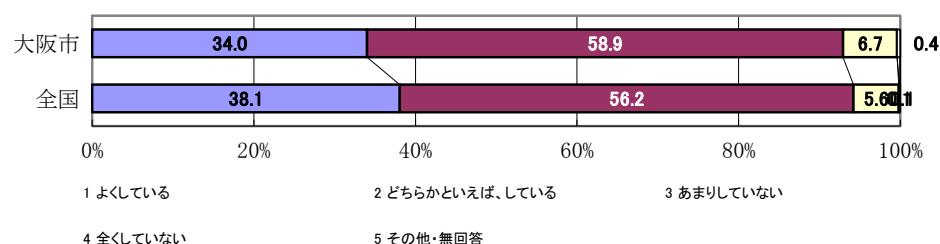
## 学校 「多くの校務で取り組んでいる」を選択



38

調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っている

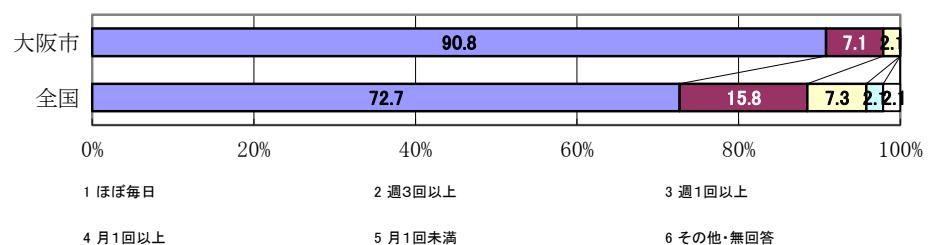
## 学校 「よくしている」を選択



52

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

## 学校 「ほぼ毎日」を選択



55

調査対象である第6学年の児童に対する、前年度までのICT機器の活用状況として、あなたの学校では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

## 学校 「ほぼ毎日」を選択

